

## 医療維新

シリーズ 「医学部卒業後10-15年目の医師たち」～JCHO編～ »

**JCHOが育成する“病院総合医”**

外科医も、サブスペ取得後も研修できる仕組み構築

オピニオン 2018年4月27日 (金)配信 独立行政法人 地域医療機能推進機構 (JCHO) 理事長 尾身茂

**「病院総合医」記事一覧**

Vol.1 「“病院総合医”として生きる」

Vol.2 「ふつうの内科医が目指す“総合内科的医療”の普及」

Vol.3 「卒業9年目の診療科チーフが目指す“第一人者”」

Vol.4 「“フリーランス医師”も視野、離島経験でプライマリケアの面白さ実感」【NEW】

われわれ地域医療機能推進機構 (JCHO=ジェイコー) は、その名の通り「地域医療の実践」を大きなミッションとして掲げています。JCHOの全国57病院や介護老人保健施設はもとより、地域の多様な医療機関、自治体などとも連携して、わが国の地域医療を支えることが使命です。つまり、地域医療を支える医師の養成も、われわれが担う役割の一つだと考えています。地域医療の現場で、多種多様な人材が活躍できるように、ちょうど1年前に始めたのがJCHO独自の「病院総合医 (Hospitalist)」育成プログラムです。



尾身氏

JCHOは「病院総合医」について、今春から始まった新専門医制度で19番目の診療領域に位置付けられている「総合診療専門医」のような医師が、200床未満の中小病院で働くようなイメージを基本に考えています。地域のコモンディジーズを治療し、専門医への紹介や医学に基づく生活指導など、医療に関する地域の需要に幅広く対応できる医師です。ただ、JCHO版の「病院総合医」育成プログラムでは入口を狭めず、出口にも幾つかの選択肢を想定して、幅広い人材を多様な医療現場に輩出できるよう工夫しました。新しい専門医制度で対象にならない、既に現場で活躍している医師も対象にできるといいたらうと考えたためです。

**外科専門医、サブスペ取得後も「病院総合医」の研修可能**

したがって、対象にする医師は内科や総合診療に関する専門医を取得している医師に限りません。例えば、外科の専門医を取得した医師も、後期研修後さらに専門領域を極めたサブスペシャリティ経験者も、JCHO版「病院総合医」の育成プログラムで研修することが可能です (図1参照)。

## JCHO版病院総合医(Hospitalist)育成プログラムとは何か？

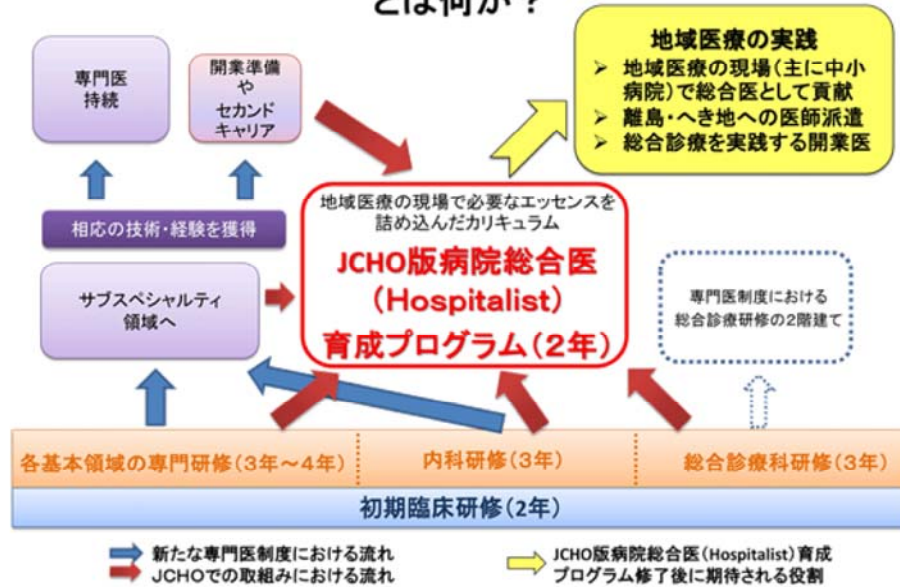


図1

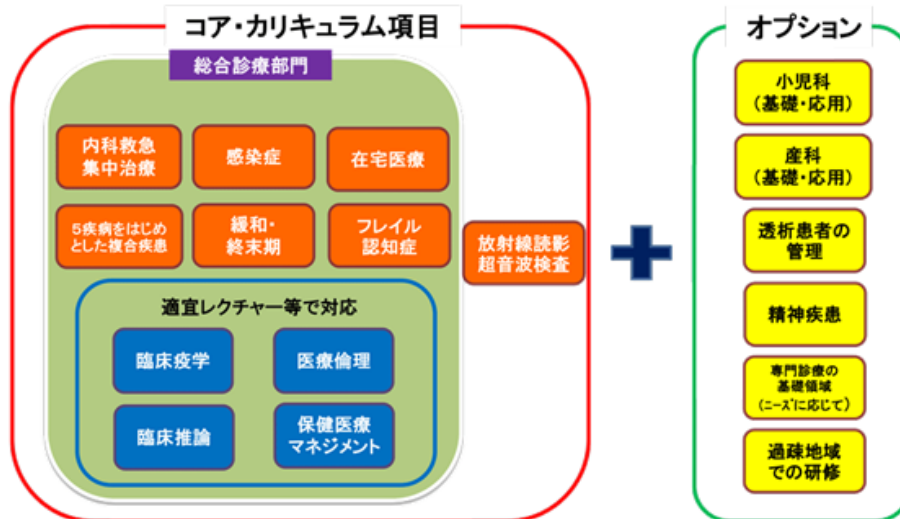
また、病院総合医の基本イメージを持ちつつも、出口となる研修後の職場については、中小病院で勤務する医師として地域医療に貢献するほかに、離島・へき地での勤務、総合診療を実践する開業医になる道も想定しています。

研修内容については、JCHOの全57病院が「総合診療重点病院」「地域研修病院」「専門研修病院」のいずれかの形で対応しており、研修プログラムだけでなく、勤務地についても多様な希望に最大限応えられるよう体制を整えています（各病院の特徴などは、JCHOホームページの「[研修施設一覧](#)」や「[各研修病院の特徴](#)」を参照）。育成プログラムの運用2年目を迎え、現在は地域医療に貢献する医師を目指す計3人（初年度2人）が研鑽の日々を過ごしています。給与は、医学部卒業6年目の場合で年間の総支給額が940万円程度（月超過勤務15時間程度、当直4回程度の概算）に設定しています。

### JCHO版病院総合医のキャリアは

近年、若い人ほど総合診療医、総合診療専門医への関心が高まっていると聞きます。しかし、育成が始まったばかりで明確なキャリアパスがなく、キャリア開発の例も分からず、漠然とした不安から総合診療の領域を“自分の道”にすると決めきれない医師が少なくないと感じています。JCHO版育成プログラムでは将来に備えて、さまざまな研鑽が積めるよう工夫しました。研修修了後は1年間の海外、もしくは国内留学が可能です。さらに、希望があればJCHO病院での正規雇用、そして将来はJCHO幹部や病院長の道も用意しています（図2参照）。日本プライマリ・ケア連合学会とも連携し、希望者はJCHOの費用負担で同学会の提供する一連の講義に優先的に参加でき、一定数以上の講義を受講するとJCHO版育成プログラムの修了認定証とは別に、同学会の修了証も取得できます。修了証を取得すると、同学会の認定医の試験が免除されます。

## 育成プログラムの研修内容



注) 研修期間や履修内容については、履修者の経験や希望に応じて柔軟に対応するものとする。  
研修期間は2年間で想定(3年間の期間まで履修可)。

図2

医師一人一人に、それぞれの個性があり、目指す医師像も違います。人とのコミュニケーションを図るのが得意な人、地域のリーダー役に向いている人、美しい自然にひかれ地方で生活を楽しみたい人、将来は開業を考えている人……等々、十人十色の個性を自ら花開かせる方法をJCHO版育成プログラムの研修を通して見付けてもらいたいと考えています。総合診療の担い手を目指す若手医師にとっては、新しい医療の道を切り開いて、思う存分に力を発揮できる未来が待っている領域でもあると思います。少しでもご興味があれば、今こそ「得手に帆を揚げよ」と踏み出しませんか。

「病院総合医」のテーマで紹介する医師は5人です。JCHO版育成プログラムの1期生やJCHO病院の総合診療科で勤務する医師など、志を持って日々医療現場で奮闘する医師たちです。育成プログラムの紹介や、病院総合医の魅力や課題など、忌憚のない思い・考えを語ってもらいます。

### 「病院総合医」記事一覧

- Vol.1 「“病院総合医”として生きる」
- Vol.2 「ふつうの内科医が目指す“総合内科的医療”の普及」
- Vol.3 「卒後9年目の診療科チーフが目指す“第一人者”」
- Vol.4 「“フリーランス医師”も視野、離島経験でプライマリケアの面白さ実感」【NEW】

シリーズ 「医学部卒後10-15年目の医師たち」～JCHO編～ ▶